


色彩・感性・装い ~ 眼で見て、心で感じる科学

関西大学総合情報学部 浅野晃ゼミ

教授 浅野晃 2024年度ゼミ生 4年生13名, 3年生12名



 ポスターの写真は
ご自由にお撮りください

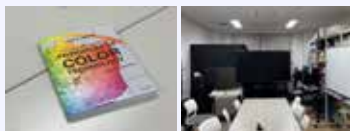
■ 「ゼミ」とは？

大学生活の後半（3,4年次）では、ひとりの教員の研究グループ（ゼミ）に所属して2年間専門的な指導を受け、卒業研究を行います。
（関西大学総合情報学部では、**必修科目**です）



2年次の10月

各ゼミの説明会（オフィスアワー）が開かれ、どの教員のゼミに入るかを選択します。



3年次（「専門演習」）

各教員のゼミで、卒業研究に向けた専門的な勉強を行います。浅野ゼミでは、色彩に関する英語のテキストを、ゼミ生で分担して読み進めます。



4年次（「卒業研究」）

各学生がそれぞれのテーマを設定し、調査や実験を行って新たな知見を得る「研究」を行います。最後に、卒業研究の成果を発表します。

■ 浅野ゼミの卒業研究では

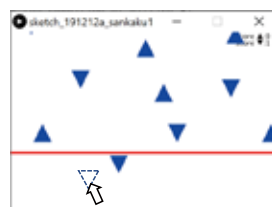
学生が自分の興味関心をもとに
自分で卒業研究のテーマを決めて、
教員との対話を通じて
「研究」に育てます。

■ 卒業研究の例

優秀な卒業研究は、卒業後に、浅野が国際・国内学会での講演や学術論文として発表しています。

■ 動的な図形

「動くもの」「変化するもの」は興味をひきます



▼と▲が上から落ちてくるのを、マウスカーソルで捕まえるゲームを行う

三角形の向き(▼や▲)と、動作の向き(落ちてくるか上がっていくか)で、捕まえやすさに違いがあるか？

向きが一致しているとき
(▼が落ちてくる・▲が上がっていく)
捕まえやすい

A. Asano, H. Morihoro, L. Li, C. Muraki Asano, and M. Grüner, Human responses to the relationships between object shapes and movements in the context of visual attention and S-R compatibility, *International Journal of Affective Engineering*, Vol.24 No.1 (2025, in press).

■ 「文理融合的」研究

「文系的」な興味を持っているゼミ生も多いです

日本と中国で、「赤／紅」、「青／藍」という漢字に対して思い浮かべる色に違いがあるか



両国の協力者に、

[1] 5つの色相から「赤」で思い浮かべる色をひとつを選んでもらう

[2] 選ばれた色相について、彩度・明度を変えたものを呈示して、「赤」で思い浮かべるものを選んでもらう

「紅」についても同じ調査を行う
「青／藍」の組についても、ブルーの色見本で同じ調査を行う

日本では「赤／青」は「紅／藍」よりも彩度が高い
中国では「紅／藍」は「赤／青」よりも彩度が高い

両国とも、色を表すのに日常用いる字のほうが、彩度の高い色が思い浮かぶ

A. Asano, M. Nakamura, and C. Muraki Asano, Differences in color recognition and color names by Chinese characters between China and Japan, *Proc. Asia Color Association 2022 Conference (ACA2022)*, 92-95 (2022).



このQRコードで、浅野ゼミのウェブサイトへアクセスできます。
これまでのすべての卒業研究について、簡単な要約がついています。

このQRコードで、浅野のウェブサイト・Facebook/twitter アカウントなどにアクセスできます。



 a.asano@kansai-u.ac.jp